

まちづくりに向けた近代化遺産イラスト画の製作に関する一考察 —栃木県足利市での取り組みを事例として—

足利大学工学部 学生会員○福地 晴香
足利大学工学部 正 会 員 福島 二郎

1 はじめに

近年、少子高齢化の進行と若年層の大都市圏への流出に伴う弊害が蔓延化しており、地方都市では地域の維持とその活性化に向けた取り組みが急務となっている。このような中、地域のアイデンティティとしての歴史・文化の活用が着目され、その一つとして近代化遺産活用の試みが各地で行われている。

本研究では、2015 年に初めて描いた近代化遺産のイラスト画を端緒として、その認知・浸透に向け遺産が有する情報を付与し再構築した新イラスト画を製作した。このイラスト画の製作過程および意図について詳述するとともに、足利市を会場に開催されたアートイベント等での公開を踏まえ、新イラスト画の外部評価について分析・考察することを目的とする。

2 足利市近代化遺産イラスト画製作の経緯

(1) 足利市の近代化遺産の概要

近代化遺産とは、幕末から第二次世界大戦終結までの間、近代工法により建造された建築および土木構造物をいう。1990 年に文化庁主導によりはじまった全国近代化遺産総合調査は今年度すべての都道府県で調査が終了し、その総数は約 38,600 件である。

足利市の近代化遺産は、2003 年に上梓された『栃木県の近代化遺産—栃木県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書』では 42 件だった。その後、当研究室で調査を継続し、昨年度「課題研究」として筆者が行った調査では 29 件まで減少していることが分かった。

(2) 近代化遺産イラスト画の製作

筆者は、本学と栃木県立足利工業高等学校による「高大連携プログラム」を 2015 年度に受講し、近代化遺産 8 件を含む 10 施設のイラストと解説文 (A1 版/2 枚)、これらの施設を自転車で巡るマップを作製した (A1 版/1 枚)。この『足利市近代化遺産イラスト画』による観光マップと解説資料の製作は、足利市では初めての取り組みであった。2018 年には、市から受託の DC^{注1)}において、新たに 4 件の遺産のイラスト画

と解説文を製作した (A1 版/1 枚)。

3 新イラスト画の再構築と製作意図

これまで作製した近代化遺産イラスト画は、複数の建造物のイラストと解説文で構成した A1 版の作品である。これを「課題研究」では、1 施設ずつ A4 版サイズに描いた形状に改良するとともに、遺産個々が有する史的時間蓄積により醸成された文化等の情報を“物語性”として描き加えた新イラスト画として再構築した。1 枚の画布に遺産の“物語性”を鏤めることにより、その認知と浸透に優位な情報ツールとして、地域交流活動を深化させることを意図している。

図 1 に、再構築した新イラスト画を示す。

4 新イラスト画の公開とその評価

(1) アートイベント『CON 展』への参加・出展

足利市で開催された美術展『CON 展』^{注2)}に出展し、新イラスト画を一般公開した。『CON 展』では市内の古民家や空き店舗 11 カ所が会場となり、52 名の作家が参加した。筆者はその協賛イベントとして、現在完成している新イラスト画 12 枚の公開展示を 6 月 1 日～9 日に開催した。また、来場者にアンケートをお願いし、196 名から回答を得た。

また、『CON 展』に加え、栃木県立足利南高等学校および『葉鹿歴史講座 (主催: 波自可里史談会^{注3)}』でもイラスト画の公開を行うとともに同様のアンケートを実施し、併せて 240 名から回答を得た。



図 1 製作した近代化遺産新イラスト画 (12 葉の内の 1)

キーワード；近代化遺産, まちづくり, イラスト画の製作, 外部評価の分析

連絡先；〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利大学工学部 福島二郎 TEL：0284 -22-5687 E-mail：fuku@ashitech.ac.jp

(2) 外部評価の分析

実施したアンケートの設問は、①絵の美しさ、②わかりやすさ、③文章の量・読みやすさ、④全体としての構成、⑤建造物に対する興味の増幅、⑥資料としての価値、の6項目である。各設問に対する評価は5段階で行った(評価指標5が高く、1が低い)。

分析の結果、全体集計では評価指数5と4の合計が①97.9%、②93.4%、③90.0%、④92.5%、⑤90.8%、⑥94.6%と全ての項目で90%以上の高い評価であり、特に①では高い水準を占めた。一方、6項目の中では③が最も低く、③についての男女別集計では男性が86.9%であった。年代別では60～70代が84.1%と低く、性別および年代の特徴が窺える。また、年代別集計の10代において、⑤建造物に対する興味の増幅の割合が82.0%と低い値であった。

全体集計の分析結果を、図2および表1に示す。

(3) 自由意見の分析

アンケートに設けた自由意見欄では、151人から意見が寄せられた。その内容を整理すると177件であり、①イラスト画、②近代化遺産、③活動、④感想、⑤その他に区分した。①～⑤の各項目に対し、a満足、b不満、c要望、dその他としてその分析を行った。①～④ではaが60%以上であり、特に②ではaが96.7%を占めた。また、①～④の総合計に対してaは76.9%、bは5.3%と【満足】の度合いが圧倒的に高く、次いでcの【要望】が18.1%であった。そこで【要望】を詳しく分析したところ、“イラスト画と情報の混在”・“建造物と解説文の配置”等、“物語性の文言”を加えたことによる絵画の美観への指摘が多々あった。

自由意見の分析結果を、図3および表2に示す。

5 まとめ

本研究の成果は、以下のとおりである。

(1) 近代化遺産の認知・浸透に向けたツールとして、遺産の“物語性”を付与した新イラスト画を製作した。まちづくりに向けた近代化遺産イラスト画の活用は、足利市初の試行となる取り組みとして意義がある。

(2) 物語性を鑲めたイラスト画に対し、高い評価が得られた。外部評価6項目の評価に対する分析の結果、美観・技法に対する優位性ととも、まちづくりに向けたツールとして有効であることが確認できた。

(3) 一方、10代においては“建造物に対する興味の増幅”の値が他に比べ低かった。若年代は近代化遺産の継承を担うこれからの世代であり、その深い理解がその前提となる。興味を誘発するための情報発信手

法とそのための取り組みが重要である。

(4) 自由意見の分析の結果、【満足】に次いで高かったのが【要望】であり、“イラスト画と物語性の構成”への意見である。付加する情報の精査を行い、美観と情報の並存のバランスを検討する必要がある。

今後は、本取り組みの成果を精査するとともに、要望等を加味・再考し市内に現存する近代化遺産29件すべてのイラスト画の完成を期したい。

注1)デスティネーションキャンペーン。JR旅客鉄道と自治体・地元観光業者による大規模な観光キャンペーン。

注2)1900年代終わりに埼玉県松伏町で始まったアートイベントで、2013年からは足利市が会場となる。複数の出展者による絵画や彫刻等に係る展覧会で、会期中、11会場の総合受付に記帳した来場者数は1500名であった(主催者公式発表)。

注3)足利西部エリアを中心に活動している民間団体。2004年に発足

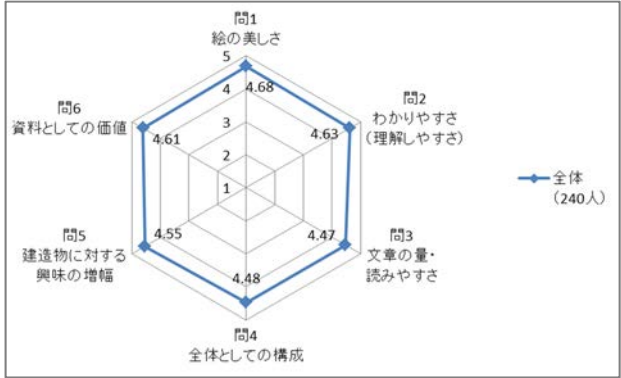


図2 外部評価の全体集計分析結果

表1 全体集計における各評価の構成

数値：件数(括弧内は%)						
	問1	問2	問3	問4	問5	問6
5	171 (71.2)	166 (69.2)	138 (57.5)	133 (55.4)	155 (64.6)	162 (67.5)
4	64 (26.7)	58 (24.2)	78 (32.5)	89 (37.1)	63 (26.2)	65 (27.1)
3	4 (1.7)	16 (6.6)	23 (9.6)	17 (7.1)	21 (8.8)	11 (4.6)
2	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	2 (0.8)
1	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	240 (100.0)	240 (100.0)	240 (100.0)	240 (100.0)	240 (100.0)	240 (100.0)

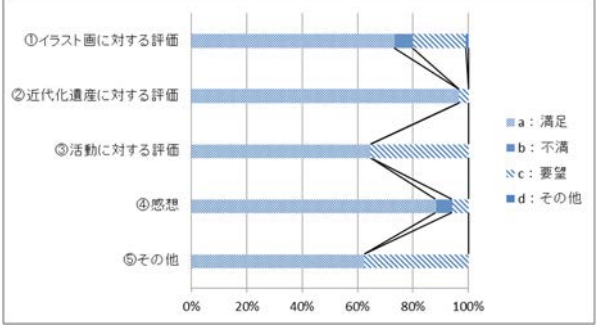


図3 自由意見の各評価軸における分析結果

表2 各評価軸の構成

数値：件数(括弧内は%)					
	a:満足	b:不満	c:要望	d:その他	合計
①イラスト画に対する評価	77 (73.3)	7 (6.7)	20 (19.0)	1 (1.0)	105
②近代化遺産に対する評価	29 (96.7)	0 (0.0)	1 (3.3)	0 (0.0)	30
③活動に対する評価	11 (64.7)	0 (0.0)	6 (35.3)	0 (0.0)	17
④感想	15 (88.2)	1 (5.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	17
⑤その他	5 (62.5)	0 (0.0)	3 (37.5)	0 (0.0)	8